

満洲文化史研究会 第3回研究集会

日時	2026年4月11日(土) 15:00~17:30
場所	東京都立大学南大沢キャンパス5号館142教室

*当日13:30-14:30に満洲文化史研究会年次総会を開催します

- 15:00 あいさつ・自己紹介
- 15:15【報告1】1920-30年代上海における「モダンガール」の表象と実態
——劉呐鷗の作品を手がかりに——
韓 若冰(カンジャクヒョウ) 東京都立大学・客員研究員
- 16:10 休憩
- 16:20【報告2】「満洲国」の教育者、官吏、作家・何靄人の文学活動
劉文悦(リュウブンエツ) 東京都立大学・中国文化論教室博士課程
- 17:15 研究会・研究活動に関する意見・情報交換
- 17:30 閉会・懇親会

- ・各報告30分、質疑応答25分
- ・会議資料・会議記録は参加者のみに配布します
- ・総合司会・運営担当：牛耕耘(東京都立大学・助教)
- ・原則、現地対面開催ですが、オンライン参加希望の場合はご連絡ください。
- ・参加申込・問合せ：満洲文化史研究会事務局 牛耕耘(東京都立大学・助教)

gyuukouun1986@yahoo.co.jp

<https://manchurian-cultural-history-research-laboratory.com/>

【報告要旨】

【報告 1】 1920-30年代上海における「モダンガール」の表象と実態 ——劉呐鷗の作品を手がかりに (韓若冰)

本報告は、1920-30年代の上海におけるモダンガールという概念の構築と、租界で風俗業に従事する女性たちの実態との乖離について、劉呐鷗の作品を手がかりにジェンダー論の視点から考察する。従来、劉呐鷗の日記や作品に描かれる女性像は、都市のモダニティを象徴する記号として評価されてきた。しかし、当時の一次史料が示す女性たちの生活境遇は、その文学的表象からかけ離れた、経済的困窮や多重な社会支配構造の下に置かれていた。

本報告では、劉の創作における理想化された女性像と、風俗産業に生きる女性の階層・職業・生存戦略を比較分析する。想像＝創造されたモダンガールという概念が、実際の女性たちの社会的苦境をいかに隠蔽・消費していたかを明らかにし、上海モダニズムにおける女性の表象を批判的に再検討したい。

【報告 2】 「満洲国」の教育者、官吏、作家・何靄人の文学活動 (劉文悦)

これまでの満洲文学研究において、何靄人の文学活動に関する体系的な研究は存在しなかった。本報告は、「満洲国」で刊行された『大同報』、『建国教育』、『新満洲』、『麒麟』などの紙誌に掲載された何靄人の作品を手がかりに、創作・翻訳・評論を中心とする彼の文学活動について考察する。また、教育者および官吏としての経歴にも着目し、それらが文学活動に与えた影響について考える。何靄人の文学活動の特徴を明らかにし、その人物像の一側面を提示するとともに、「満洲国」文学界・教育界における彼の位置づけを試みる。